

螺 子

染 谷 秀 雄

七月後半になって脊柱管狭窄症の手術をした。間接跛行といって数分歩くと脚の爪先から腰あたりまでが痛くなり休まないと歩けなくなる。これが右脚にきた。少し休むとまた回復するがその繰り返しとなってしまふ。そのため、職場でも句会でもまた、最寄りの駅には毎日妻が荷物を持つために出迎えてくれた。重い荷物を支えてくれたみんなに感謝である。

協会に入った年にも部位は違うものの同じように手術した。先生も同じ。病院だけが違っていた。十年程前のときに留めた金具類は生涯埋めたままで外すことはありません。と言われていたが、今回の症状は従来手術の近くのために一回取り外して別途付け替え直すということである。もう一箇所は骨盤に近い方でこちらは脇腹を切ってそこから付けたため神経に触れる心配はない代わりに内臓を傷つける恐れのあるとのことだ。手術は神経を避けながらやるために、万が一損傷させれば脚に麻痺症状が現れるということである。従って二箇所を金具で留めるために当初装着したところ

を外すことが最良ということ入院した夕方に説明を受けた。六時間程に及ぶ手術は無事に終わったものの術後三日程経ったとき、先生から受け取ったものが十年間経て日の目を見た金具の量に驚いた。長さ六センチ余、太い所で経九ミリの螺子が四本、その他の留め金などで六十グラムという重さであった。今回の手術はその五割増し程の量というので百グラムほどかもしれない。

しかし今度の金具は生涯自分では見ることはないようである。